

平成24年度 新聞記事等一覧 (1月分)

No.	掲載年月日	媒体名	記事(番組)表題	記事(番組)概要	記事(番組)関係者等	
1	1月1日	全国農業新聞	WEB	対論 農業委員会の活動、どうあるべきか	全国農業会議所に設置された、「農業委員会制度・組織に関する検討会」で検討委員を務めた東京農工大学の淵野雄二郎名誉教授らの対論形式の記事が掲載。	淵野 雄二郎 名誉教授
2	1月4日	東京新聞	6面	【国境 交錯の現場】 ③ロシア・アムール州 農民流入「中国化」を警戒	ロシア・アムール州が、農場や研究所、加工販売施設からなる「農業パーク」構想の推進に向け、日本の農業技術へのニーズから、東京農工大学の研究者などを視察に招待したと紹介。	
3	1月4日	東京新聞 TOKYO Web	WEB	国境 交錯の現場 (3)ロシア・アムール州 中国人頼みに警戒感	ロシア・アムール州が、農場や研究所、加工販売施設からなる「農業パーク」構想の推進に向け、日本の農業技術へのニーズから、東京農工大学の研究者などを視察に招待したと紹介。	
4	1月7日	朝日新聞	3面	鳥獣保護区 食害で削減 30道府県 6年間で7.2万ヘクタール シカやイノシシ 狩猟の範囲拡大	全国の自治体で野生動物による農作物への被害を理由に鳥獣保護区が削減されていることに対して、東京農工大学の梶光一教授が、「生態系を壊さず、被害を減らすには何頭捕獲するのかを決める専門家と、捕獲目標を達成できるブロのハンターを育成し、保護と捕獲のバランスがとれた鳥獣対策を進める必要がある」とコメント。	農学研究院 梶 光一 教授
5	1月7日	日刊工業新聞	23面	「ハーバー・ボッシュ法」工業化100年 アンモニアに再び脚光	アンモニア合成の新たな方法として、東京農工大学の亀山秀雄教授によるプラズマを使って窒素と水からアンモニアを合成する方法などが紹介。	工学研究院 亀山 秀雄 教授
6	1月7日	TOKYO MX	TV	TOKYO MX NEWS 魅力発信に一役 東京農工大学でキャラクター募集	東京農工大学が、創基140周年を記念し、大学の魅力を広く知ってもらおうとキャラクターの募集を始めたことを紹介。	戦略企画課 田中 哲也 係長
7	1月10日	NHK (BS1)	TV	BS海外ドキュメンタリー 「海の怪物 プラスチック」	プラスチックによる深刻な海洋汚染が懸念される現状の報告とともに、東京農工大学の菅原史法教授の研究内容とその取組みが紹介。	農学研究院 高田 秀重 教授
8	1月10日	NHK	TV	あなたが主役 50ボイス 「二十歳の春ボイス」	「二十歳の春ボイス」として、将来の夢や目標を語る50名のうち、東京農工大学農学部獣医学科の学生2名のインタビューが放映。	農学部
9	1月10日	日刊工業新聞	21面	キャンパスベンチャーグランプリ② 受賞者決まる	キャンパスベンチャーグランプリにおいて、東京農工大学の菅原史法さんが、特別賞アステラス製薬賞を受賞したと紹介。	菅原 史法(学生)
10	1月10日	KRY 山口放送	TV	トクヤマが新LEDを共同開発	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
11	1月10日	時事ドットコム	WEB	深紫外線LED、性能向上＝殺菌用水銀ランプの代替期待－東京農工大とトクヤマ	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
12	1月10日	KOL NET 河北新報社	WEB	ウイルス退治にLED作製 紫外線出力、トップレベル	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
13	1月10日	47NEWS	WEB	ウイルス退治にLED作製 紫外線出力、トップレベル	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
14	1月10日	京都新聞	WEB	ウイルス退治にLED作製 紫外線出力、トップレベル	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
15	1月10日	中日新聞 CHUNICHI Web	WEB	ウイルス退治にLED作製	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
16	1月10日	niftyニュース	WEB	ウイルス退治にLED作製	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
17	1月10日	さきがけWeb	WEB	ウイルス退治にLED作製 紫外線出力、トップレベル	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
18	1月10日	livedoor NEWS	WEB	深紫外線LED、性能向上＝殺菌用水銀ランプの代替期待－東京農工大とトクヤマ	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
19	1月11日	株式経済新聞	WEB	トクヤマが切り返し急、農工大と紫外線LED開発で	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
20	1月11日	日本経済新聞	13面	紫外線LED開発 電力消費抑え殺菌 トクヤマと東京農工大	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
21	1月11日	日本経済新聞	WEB	トクヤマと東京農工大、紫外線LED開発 殺菌に利用	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
22	1月11日	日経産業新聞	8面	深紫外線LED開発 トクヤマなど 水銀ランプ代替に 波長短く	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
23	1月11日	日刊工業新聞	13面	東京農工大とトクヤマ 深紫外線LED開発 消費電力抑え強殺菌作用	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
24	1月11日	日刊工業新聞 Business Line	WEB	東京農工大とトクヤマ、深紫外線LED開発 一消費電力抑え強殺菌作用	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
25	1月11日	Sankei Biz	WEB	トクヤマと東京農工大 高出力深紫外線LED 開発	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授
26	1月11日	化学工業日報	面	トクヤマ-農工大 高出力の深紫外LED 15年度事業化 窒化アルミ基板採用	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院 瀧野明伯副学長 熊谷義直准教授

27	1月11日	化学工業日報	WEB	トクヤマ・農工大 高出力深紫外LED 15年度事業化	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
28	1月11日	石油化学新聞 日刊通信	WEB	トクヤマと東京農工大、紫外線LED開発に成功 水銀ランプ代替の殺菌光源で15年度までに事業化	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
29	1月11日	日刊ケミカルニュース	WEB	農工大とトクヤマ、高性能深紫外線LEDの作成に成功	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
30	1月11日	電気新聞	WEB	東京農工大など、環境に優しい殺菌光源開発LED活用	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
31	1月11日	朝日新聞	17面	私の視点 研究費の配分 ノーベル賞を機に再考を	東京農工大学の柴田元教授が、日本発明振興協会専務理事として、京都大学の山中伸弥教授のノーベル賞受賞を機に、研究費の効果的な配分のあり方を全面的に再考してもらいたいと寄稿。		柴田 治呂 元教授
32	1月11日	広報ふちゅう	5面	官公庁から	東京農工大学科学博物館「子ども科学教室～木を知らう！バードコールづくり」の開催案内。		
33	1月11日	山口新聞		ウイルス不活化に紫外線LED トクヤマと農工大が作製	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
34	1月11日	マイナビニュース	WEB	農工大とトクヤマ、深紫外線LEDを開発 - 世界 トップレベルの出力特性を実現	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
35	1月11日	Tech On!	WEB	東京農工大とトクヤマ、深紫外線LEDで世界最 高レベルの出力特性	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
36	1月11日	環境ビジネス ONLINE	WEB	東京農工大など「深紫外線LED」を開発 殺ウ イルス、植物育成制御に	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
37	1月11日	zakzak	WEB	主要大学最新偏差値ランク 公務員、大企業 目指すなら… 何を基準に選ぶのか？	大学選びの基準として、教育がきめ細かく質の高い授業が受けられるなどの理由から、理系では東京農工大学などの国公立大学を推す大学コンサルタントの山内太地氏のコメントが紹介。		
38	1月13日	朝日新聞	39面	オオカミ探して40年 「きつ」といふ奥秩父歩く 「人間の罪深さ」感じながら	東京農工大学の丸山直樹名誉教授が、かつては守り神としてあがめられながら、家畜を襲う害獣とみなされ駆除されていったニホンオオカミについて、「文明開化の犠牲になった」とコメント。		丸山 直樹 名誉教授
39	1月14日	産経新聞	10面	小型・軽量、寿命10倍に 高出力の紫外線LED 東京農工大とトクヤマ	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
40	1月15日	マイナビニュース	WEB	理研、植物生長ホルモン「GA1」の唯一未解明 の生合成酵素遺伝子を発見	東京農工大学の川出洋准教授らの研究グループが、多くの植物に普遍的にある「ジベレリンA1(GA1)」の生合成に関わる酵素遺伝子の中で、唯一未解明だった「GA13-酸化酵素遺伝子」をイネから発見し、今後、新しい植物生長調節技術の開発が期待できると紹介。	農学研究院	川出 洋 准教授
41	1月16日	毎日jp	WEB	農下村塾:神山に今春開講 学習塾ない地区に 学びの場 NPO、地域との交流も—受講生募 集/徳島	徳島県神山町でNPO法人などが小中学生を対象にした学習塾「農下村塾(のうかそんじゅく)」を今春開講させ、その講師を務める東京農工大学卒業生の山口良文氏のコメントが紹介。		山口良文(卒業生)
42	1月18日	日刊工業新聞	24面	京大などURA有志 情報交換の場 設定 自主財源での雇用議論	東京農工大学などの大学リサーチ・アドミニストレーター(URA)有志が、大学自主財源によるURA自立化をにらんで「リサーチ・アドミニストレーター・ネットワーク」を2013年度に設立すると紹介。		
43	1月18日	科学新聞	1面	手軽で効果的な殺菌光源 —東農工大などの研究グループ— 深紫外線LED作製	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
44	1月18日	科学新聞	2面	農工大の遠藤章氏 全米発明家アカデミー会員に	東京農工大学の遠藤章特別名誉教授が、米国の非営利団体「全米発明家アカデミー」の「Charter Fellow(チャーター・フェロー)」に選出され、同アカデミーの会員に迎えられたことが紹介。		遠藤 章 特別名誉教授
45	1月21日	日経産業新聞	12面	【医かす バイオ】 JITSUBO ペプチド薬を効率生産	東京農工大発のベンチャー企業で、ペプチドの受託生産や独自の生産技術のライセンス供与等を手掛けるJITSUBOの事業を紹介。	農学研究院	千葉 一裕 教授
46	1月23日	半導体新聞		トクヤマと農工大 深紫外線LED 15年の事業化目指す	東京農工大学とトクヤマが、殺菌用水銀ランプよりも消費電力が少なく、寿命が長い世界トップレベルの深紫外線発光ダイオード(LED)を開発したと紹介。	工学研究院	額野明伯副学長 熊谷義直准教授
47	1月24日	日刊工業新聞	24面	【レーザー】 学びの楽しさ演出	東京農工大学発のベンチャー、アイラボの堀口社長が、手書き文字の認識エンジンの技術応用についてコメントした記事が掲載。	アイラボ	
48	1月25日	マイナビニュース	WEB	挑戦することに意義がある! - RICOH & Java Developer Challenge Plus 2012	Javaコンテスト「RICOH&Java Developer Challenge Plus 2012」の最終選考会が行われ、東京農工大学のチーム「DLCL」が、特別賞の「地球にやさしかったで賞」を受賞したと紹介。		

追加記事等（12月分）

No.	掲載年月日	媒体名	記事(番組)表題	記事(番組)概要	記事(番組)関係者等
1	12月21日	武蔵小金井Walker	市民も活用できる!! キャンパスWalker 繊維からテクノロジーへ、革新し続ける名門校 東京農工大学 小金井キャンパス	市民も活用できるスポットとして、東京農工大学小金井キャンパスの科学博物館、エリブスなどが紹介。	科学博物館 140周年記念会館
2	12月25日	農業協同組合新聞 JA com	man・人・woman 【農業協同組合研究会会長、東京農工大名誉教授】 梶井 功 氏	東京農工大学の梶井功名誉教授が会長を務める農業協同組合研究会の第18回研究会において、第26回JA全国大会決議における農協の支店の拠点化について、梶井名誉教授が「非常に重要な、本質的な問題提起だ」と評価したことが紹介。	梶井 功 名誉教授
3	12月25日	日本農民新聞	医農連携の新しいフードシステムづくり 疾病予防と健康維持増進へ 優れた農産物のバリューチェーンを	東京農工大学の千葉一裕教授が副理事長を、澁澤栄教授が事務局長を務めるアグロ・メディカル・イニシアティブ(AMI)研究会が、「機能性食材の研究はここまで進んだ」をテーマにシンポジウムを開催し、澁澤教授が研究会発足からの経緯や今後の目標について報告を行ったことが紹介。	農学研究院 農学研究院 澁澤 栄 教授 千葉 一裕 教授
4	12月26日	中日新聞 CHUNICHI Web	環境負荷低減18項目を追加 リニアアセスで JR東海	長野県の環境影響評価技術委員会の委員長を務める東京農工大学の亀山章名誉教授が、JR東海による現地調査についての報告を受け、「知事意見をしっかりと受け止めてくれた。委員もおおむね納得した」とコメントしたことが紹介。	亀山 章 名誉教授
5	12月26日	日刊工業新聞	【フロンティア 知恵を絞る】 東京農工大 ブルーベリーの植物工場(下) 廃校を活用、コスト低減	東京農工大学の植物工場において、ブルーベリー栽培で培った技術を他の果樹にも生かそうという取り組みについて、荻原勲教授のコメントを交えて紹介。	農学研究院 荻原 勲 教授
6	12月29日	東京新聞	クマ出没 多摩3倍 エサ不足 里山荒廃で増加	クマが異常出没している理由について、東京農工大学の小池伸介講師が、ドングリの不作や人とクマの緩衝地帯だった里山が荒れたことなどをあげ、「クマは基本的に人間を避けて、ひっそり過ごしている。生ごみなどの管理を徹底し、エサがないと分かれれば、元いた場所に帰って行くはずだ」とコメント。	農学研究院 小池 伸介 講師
7	12月29日	東京新聞 TOKYO Web	クマ出没 多摩3倍 エサ不足 里山荒廃で増加 あきる野	クマが異常出没している理由について、東京農工大学の小池伸介講師が、ドングリの不作や人とクマの緩衝地帯だった里山が荒れたことなどをあげ、「クマは基本的に人間を避けて、ひっそり過ごしている。生ごみなどの管理を徹底し、エサがないと分かれれば、元いた場所に帰って行くはずだ」とコメント。	農学研究院 小池 伸介 講師